

NEXT BREAK Profile Vol.3

杉山麻衣さんが、いまイチオシの俳優をプロファイル。新しい才能をいち早くキャッチ!



窪田正孝

ABOUT Kubota Masataka

2006年のデビュー以来、立て続けに主役級の役への抜擢が続く窪田正孝。オーディションをきっかけに、普通の高校生から軽やかにスターダムをかけあがってきたように見えるが、カリスマ性すら感じさせる俳優の顔の下には、状況を冷静に見据える等身大の青年もいる。

「主役に関わらずいつもプレッシャーを感じています。それに気負いしないように、与えてもらった役に全力で挑むことは、ずっと変わっていません」。

「初めてスクリーンで自分の演技を見た時は、恥ずかしくてまともに観られませんでした」と語るほど、実は謙虚なキャラ。役づくりでもっと大切にしていることは「演じる役を好きになること」。彼が役に生き生きとした命を吹き込むことができるは、そんな繊細な感性と、演じることへの愛かもしれない。2013年は蜷川幸雄の舞台にも初出演し、実力派俳優への道を一歩ずつ確実にしてゆく窪田正孝。役者は自分にとって「天職」だと感じますか?という質問には、「感じません。でもずっとずっと続けてきたい仕事を」と、強くまっすぐな答えが返ってきた。

©マガジンハウス／千倉志野
Profile 1988年、神奈川県出身。2006年から映画、ドラマに出演。アクションから時代劇まで幅広い役柄をこなす。「ふがいない僕は空を見た」で、2012年ヨコハマ映画祭最優秀新人賞、高崎映画祭最優秀助演男優賞。

Topics

スター発掘のポータルサイト「オーディションバンク」

毎日どこかで行われているオーディション。どんな有名俳優も、皆オーディションを経て役をつかんできたもの。エンターテインメントの登竜門、オーディションに、ケータイやパソコンから手軽にアクセスできるサービスが、「オーディションバンク」。入会すると、エキストラ、CMモデルから、舞台や映画の主役級の



<http://audition-bank.com>

New Release

TWIN CROSSの「セツナあたたかい」ハーモニーに注目

沖縄出身の男性デュオ「TWIN CROSS」。その「セツナあたたかい」歌声が、デビュー直後から大きな話題をよんでいる。メンバーの DAN と TOSHI ふたりは、地元の名門ライブハウスで活動を始め、実力でオーディエンスの共感をつかんできた。シングル収録曲「ただいま」は、故郷を思う気持ちを歌ったナンバーだ。「いま自分たちが暮らしている東京の海を見て、それとつながっている沖縄の海と、そこにはいるかけがえのない人たちに思いを馳せる」。そんな彼らの等身大の気持ちが込められたリアルな情感が、聴く人の心を捕さぶる。2013年春にはツアーで日本各地のオーディエンスと交流。「ホームは沖縄だけど、ただいま」と言える“故郷”が日本全国にちょっとずつ増えてきた。



初の全国ワンマンツアー開催決定

「TWIN CROSS DA LIVE TOUR 2013 AUTUMN(仮)」

- ★10月17日(木) eLi. SIZE(名古屋)
- ★10月19日(土) Live House Pangea(大阪心斎橋)
- ★10月25日(金) 青山 月見ル君想フ(東京)
- ★11月2日(土) LIVE HOUSE MOD'S(沖縄北谷)

ただいま / NAMIDA
TFCC-89425 1,000円(税込)

シングルとして発売時に、USEN HIT J-POPランキング1位を記録したヒット曲「ただいま」を収録。2013年4月24日にリリースされたA面シングル。

profile DAN:右(沖縄県出身)、TOSHI:左(沖縄県出身)のデュオ。専門学校時代に出会い、ユニット結成。『auオキナワミュージック★グラブリ2010』でグランプリ受賞。http://www.twincross.jp/

GRAND MARBLE JOURNAL ステージ、アートイベント…2013年上半期、グランマーブルは「文化の創造」をサポートさせていただきました。

渋谷慶一郎+初音ミクによるボーカロイド・オペラ「THE END」



限定BOX入りのマーブルディッシュが「THE END」プレビュー、レセプションでお土産として配されました。



COOL JAPAN を代表するポップアイコンとして、日本のみなならず、海外でも話題をよんでいる初音ミクは、今やさまざまなジャンルのクリエイターを刺激する存在。音楽家、アーティストの渋谷慶一郎と、脚本家の岡田利規、映像作家のYKBX、時代の最先端の才能がコラボレーションした、初音ミク主演のオペラ「THE END」が、2013年5月、クラシックの殿堂である東京・渋谷のオーチャードホールで上演された。高解像度プロジェクトに現れる初音ミクが身にまとう衣装はルイ・ヴィトンのアーティスティック・ディレクター、マーク・ジェイコブスと彼のスタジオチームが提供。前代未聞の刺激的なスペシャルコラボが実現した。



(左)演出家の岡田利規。(右)音楽家、アーティストの渋谷慶一郎。

マーク・ジェイコブスと彼のスタジオチームが提供したダミエ柄の初音ミクのドレス。

ILL. by YKBX
©Crypton Future Media, INC. www.piapro.net ©LOUIS VUITTON

次世代を担う能楽師の挑戦 「宗一郎の会」

林宗一郎は、能楽観世流のシテ方。31歳の若さで独立し、2012年に独立能を披露。能楽の世界に新風を吹き込んでいる。能と聞くと、敬遠してしまう人も多いかもしれないが、「能は普遍的なテーマを描いているんです。神仏を敬う心、戦争の空しさ、妬みや情愛。誰もが持っている感情だから、共感できる部分が必ずあると思います」。

初めてとなる公演の前には、事前講座を何度も開催して、自ら上演する演目の見どころを解説。演じることばかりでなく、普及にも力を入れるのは、同じ若い世代にも能の楽しさを伝えたいという思いから。

「能って、ゆっくりしていて眠いと言われますが、高速化している現代とは違う、非日常の時間の流れが、舞台の上にはあります。

それを数時間、心地よさとして味わってほしい。それから、能舞台には、柱はあって壁がありません。つまり、舞台の上で起こることは観客と一体だということを表しているんです。600年の歴史を持つ能という古芸能は、時空を超えて人の心に届くスケールの大きなパフォーマンス。「将来は新作にも挑戦してみたいです。伝統は先人の遺産を、時代に合った形に変えて伝えてゆくことで、心は変えたくないですね」。

第一回「宗一郎の会」は2013年7月6日、京都観世会館で開催。演目は、ダイナミックな舞が見どころの『舟弁慶』。



Profile 1979年、京都府出身。観世流シテ方。父13世林喜右衛門、26世觀世宗家清和に師事。2011年に独立し、はじめて自主公演を主催した。

京都を舞台にした国際写真フェスティバル 「KYOTO GRAPHIE」が開催されました



2013年5月、京都の春を彩る国際写真フェスティバル「KYOTO GRAPHIE」が開催された。寺社や町家など、京都ならではのロケーションを舞台に、世界各国から選ばれた写真家の作品を展示。24日間にわたって、街と写真と京都の伝統工芸とのコラボレーションが展開。今後は年に一度の開催が予定されている。

(左)高台寺塔頭、園徳院では国際的に高い評価を得る細江英公の作品が複数とて展示された。
(右)祇園のお茶屋富美代と併設のギャラリー ASPHODELでは「ハッセルブラッドマスター2012/エールフランスラウンジ」が開催された。